

推薦入試について

学校推薦型選抜入試（11月1日～）・総合型選抜入試（昨年度までのAO入試、9月15日～）が始まります。大学受験には、一般選抜入試の他に、学校推薦型選抜入試（公募制推薦・指定校推薦など）と総合型選抜入試がありますが、どちらも大学側が要求する出願条件を満たしていることが受験条件となります。また、学校推薦型選抜・総合型選抜ともに校内の推薦委員会の承認・承諾が必要となります。3年生はすでに自分の受験方法を定めて学習に取り組んでおり、推薦入試に挑戦する生徒は、一般入試に向けての学習と推薦入試に向けての対策を始めています。3年生は改めて確認するために、1・2年生は今後の参考のために、以下に本校の規定を掲載しますので読んでください。

本校の学校推薦型選抜入試・総合型選抜入試規定

1 学校推薦型選抜入試について

1-1 本校の推薦基準

- (1) 学習態度、生活態度とも他の生徒の模範であり、本校の生徒として推薦に値すること。
- (2) 志望する大学、短大、専修・各種学校等（以下、志望校とする）の推薦基準に達していること。
- (3) 原則として、これまでに懲戒処分の対象となる問題行動などを起こしたことがないこと。

1-2 学校推薦型選抜入試を希望する生徒の確認事項

- (1) 指定校制推薦、公募制推薦とも推薦委員会で推薦を認められた場合に出願することができる。
- (2) 学校推薦型選抜入試による受験の申請は、その志望校を第一志望とする場合に限られる。また、合格後の辞退は認められない。
- (3) 原則として、併願はできない。ただし、当該の志望校が併願を認めている場合は推薦委員会で協議の上、判断する。
- (4) 学校推薦型選抜受験願を提出する場合は、必ず保護者の同意を必要とする。
- (5) 学校推薦型入試は出願書類の審査の他に面接・小論文等の試験の結果、合否が判断されるものであり、推薦されることが必ずしも合格を意味しない。
- (6) 合格後に問題行動があったり、単位を落したりした場合は推薦を取り消すこともある。
- (7) 学校推薦型選抜入試希望者が合格した場合、必ず大学入学共通テストを受験すること。また、それに伴う講習などは必ず受講すること。
- (8) 校内の申し込み期限については厳守すること。

2 総合型選抜入試について

2-1 本校の出願基準

- (1) 志望校の出願資格（アドミッションポリシー）を満たしていること。
- (2) 懲戒処分の対象となる問題行動のあった生徒の出願の扱いについて
問題行動によって指導を受けた生徒の出願については、調査書以外に校長の許可を必要とする書類を提出する場合は、その経過を踏まえて校長が判断する。例えば、東北大学の総合型選抜入試がこのケースに該当する。
また、出願資格（アドミッションポリシー）の中に、人物等に関する記載がある場合も、その経過を踏まえて校長が判断する。例えば、弘前大学医学部医学科の総合型選抜入試がこのケースに該当する。

2-2 総合型選抜入試を希望する生徒の確認事項

- (1) 総合型選抜受験届を提出する場合は、必ず保護者の同意を必要とする。
- (2) 総合型選抜入試希望者が合格した場合、原則大学入学共通テストを受験すること。また、それに伴う講習などは必ず受講すること。
- (3) 校内の申し込み期限については厳守すること。

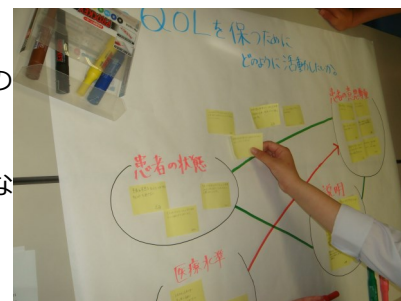


OB・OGによる医学部医学科に関する説明会

8月17日(月)に1～3年生の医学部医学科を志望する生徒を対象に、OB・OGによる入試および大学生活に関する説明会が開かれました。例年であれば、各難関大に進学したOB・OGを招いての説明会ですが、今回はコロナウィルスの影響もあり、弘前大学医学部医学科に進学した4名の先輩からの説明となりました。

まず、医学部医学科を志した理由や受験に向けてどのように学習をすすめたか、など高校生活を振り返っての説明と、大学での勉強や生活全般についての説明がありました。その後、生徒が4～5人のグループに別れて「患者のQOL (Quality Of Life 生活の質) を保つためにどのような活動をしたいか」を課題としてKJ法(課題解決に向けて用いられる手法の一つ)を用いて話し合うワークショップを行いました。メンバーそれぞれが課題に関する自分の意見やアイデアを付箋にできるだけ記入し、続いてメンバー全員の付箋を意味や内容ごとにグループ化して1枚の模造紙にまとめます。その際には、自分の意見について説明したり、メンバーの意見に耳を傾けたり、よりよい解決法は何かを話し合うこととなります。それによって同じ情報を共有し、課題に対する様々な見解を得ることができます。先輩たちからの助言を受け、生徒は熱心に取り組んでいました。

*弘前大学医学部医学科の総合型選抜においては、受験者は共通テストの前にこのKJ法を用いたワークショップや模擬講義、個人面接、ケーススタディ(事例研究)などを受験しなければならず、その結果が共通テストの点数に加算され、最終的な結果につながります。



大学入学共通テスト 地歴・公民編 蛍雪時代5月号参照

○日本史B

歴史事象に対する理解力・思考力・判断力・表現力が求められます。文字資料や絵図・写真などの視覚資料を多用し、それらの比較考察を通して歴史事象に対する理解力の有無を試す問題が想定されます。授業や教科書の学習を軸に、要点整理を通して確実に知識の習得をして基礎力を固めつつ歴史の流れを頭に入れておくことが大切です。

○世界史B

古代から戦後史まで全地域・分野を網羅した問題が出ることが予想されます。プレテストでは、用語そのものを問う問題よりも歴史的事象の背景・経過・結果を問う問題が増加しており、さらに写真・史料・統計データなどが問題に取り入れられていることから、歴史的知識を前提にした思考力・判断力が問われることとなります。教科書や資料集をただ見るのではなく、例えばグラフであれば、なぜ増えた・減ったなどについて歴史的な事象に照らし合わせて考察する、といった学習が必要です。また広範囲にわたるので、同時代史も含め、時代・地域・分野的にムラのない学習をすることが必要です。

○地理B

自然環境、資源と産業、生活文化などの系統地理的分野、具体的な地域に関する地誌的分野、および地域調査と、教科書で扱う項目がほぼまんべんなく出題されると予想されます。系統地理の基本的知識をしっかり身につけ、それをもとに地域の特徴を理解する応用力が問われます。自然環境とそれと関わりの深い産業や環境問題について、その仕組みと分布の特徴を理解したうえで、各地域の特徴を地図や表を用いて整理することが必要です。自然環境の理解度を測るには、センター試験の過去問も有効です。

○倫理

履修範囲からの逸脱はなく、基本事項に関する設問が中心となる予想です。出題内容に関しては、ただ原典資料を読解するだけではなく、具体例や類似する思想を選ばせたり、現実の事象とどう関係するのかという思考力を問う問題が多くなると思われます。またプレテストでは、先の解答に応じて次の正解が変わる連動型設問がありましたが、知識があり、冷静さもあれば、正解できる問題です。教科書の読解に丁寧に取り組み、重要語の丸暗記ではなく、具体例に則して理解することを心がけましょう。

○政治・経済

グラフや表を用いた出題が大幅に増加することが予想されます。解答に必要な知識レベルは基本的ではありますが、政策・出来事の背景の理解や文章の読解力が問われるので、用語の意味を確認しながら教科書を読み込みましょう。センター試験の過去問から実戦的な問題を選んで解くことでも必要な学力は身につけられます。